

自己点検・評価 報告書 (令和5年度)

学校法人 武田学園
専門学校ビーマックス

1. 専門学校ビーマックスの教育目標

創設時の岡山会計学館 経理専門学校時代より一貫して大切にしていることは、社会に出て活躍できる人財を輩出することである。具体的には以下の文言で共有している。

- ・明るく・素直に・元気に働き続けられる人を育成すること
- ・数字に強くなり、所属した組織で重要な仕事を任される人を育てること
- ・夢を抱き、その実現のために積極的・献身的に学び、働き、周囲を巻き込んでいく人を育成すること。

そのために、専門力育成に特化したカリキュラム編成ではなく、人間力向上にも重きを置いてカリキュラムを組んでいる。また、教職員にも自らの専門領域に閉じこもることが無いように指導している。経験の無いこと、前例の無いこと、学外での取り組み等にも果敢に挑戦し、自らの人としての幅を広げて行くことを推奨している。学生も教職員も共に成長し続けるために、チャレンジの場を数多く提供することが、当校の存在価値を高めると考えている。

2. 令和5年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標・計画

令和5年度の重点項目は以下の3点であった。

- ① 学園独自科目・行事の新開発、ブラッシュアップ
(セルフマネジメント・ヒューマンスキルプログラム・社会貢献活動等)
- ② 基礎力の強化
(対人関係調整力・コミュニケーション力・文章力・計算力・パソコン操作等)
- ③ 新学科 又は新部門設立に向けた情報収集、準備、活動の継続

これらは学園の課題解決と学生気質等の時代の変化に適応するための目標であった。新型コロナウイルスの蔓延で、一時的に停止していたカリキュラムや活動を令和4年度から再構築していた。令和5年5月からは新型コロナウイルスが5類感染症に引き下げられ、より活動的に行事や学外活動を行うことができた。その結果、学生が外部の方と接する機会が増加し、変化・成長のスピードが増してきたように感じる。一方で、外部の方から学生の至らない言動のご指摘を受ける場面があり、改めて教育の質を向上させていく必要を痛感した。特に、学生世代の当たり前の感覚が、コロナで分断された時期を経て、現役社会人と大きく乖離し始めたことを感じている。若い世代の価値観や考え方を受け入れつつも、社会人として学生自身が合わせていけないといけな部分のバランスを意識させ、社会適応させていくことが求められている。

そのためにも学生個人の個性(長所や得意分野)を伸ばし、活かすと同時に、社会の一員としての集団意識、行動を身につけさせていく。転ばせないための指導ではなく、転んでもどう立ち上がり、向かっていくべきかを学ばせる方針で、学生に貴重な経験、体験を積ませることを継続していく。

これらの反省と次年度以降を見据え、令和6年度も重点項目は以下の3点を継続していく。

令和6年度 重点項目

- ① 学園独自科目・行事の新開発、ブラッシュアップ
(新入生研修・セルフマネジメント・ヒューマンスキルプログラム・社会貢献活動等)
- ② 基礎力の強化
(対人関係調整力・コミュニケーション力・文章力・計算力・パソコン操作等)
- ③ 新学科 又は新部門設立に向けた情報収集、準備、活動の継続

3. 評価項目の達成及び取組状況

自己点検・自己評価を行った結果を、評価項目別に記す

4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

※生涯学習センターは一部文言を入れ替えて実施している（入れ替え部分を欄外に記載）

(1) 教育理念・目標

評 価 項 目	前回	評価
1-1 学校の理念・目標・育成人材像は明確に示されているか	4	4
1-2 学校の理念・目標の実現に向け、特色ある活動が行われているか。	4	4
1-3 学校の理念・目標は教職員に共有されているか。	4	3
1-4 学校の理念・目標・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等 ¹ に周知されているか。	3	3
1-5 学校の将来構想を描き、先を見据えた中期的構想を抱いているか。	3	3

教育理念・目標に対する取り組み、問題点など

- ・学園経営理念は短く意識しやすい文言にまとめている。

【武田学園経営理念】

武田学園は教育活動と企業コンサルティングを通して人と企業を活かし、その結果として人と企業から活かされる学園であることを第一義とする。そのために我々は時代を先取りし、時代に適応して生き抜くために必要な教育ソフトとハードを広く社会に提供し、人と企業が勇気と希望を持って成長できるように指導する使命を持つ。

- ・本校では2005年度より、入学前三者面談（1月～3月）を全入学生対象に実施している。1組につき約1時間、その場で学園の理念・方針などは具体的な事例を交えてお伝えしている。保護者から本音が聞けることも多々あり、非常に有益な時間であると考えている。また、入学後の三者面談も全学科で1回以上実施している。令和5年度の三者面談では、子どもに多くの経験を積みさせてやりたいという意見を保護

¹ 学生・保護者になる言葉「社会人受講生・企業」

者から聞く事が多かった。

- ・生涯学習センターでは中期的構想に基づき、社会人の働く環境(介護・子育て等のワークライフバランス)を考慮したキャリアの在り方を提案できるような社会人教育の提案を引き続き行っている。また、高齢者の受講生も多くなったところから対応を考えていかなければならないということも課題となっている。

(2) 学校運営

評 価 項 目	前回	評価
2-1 理念・目標に基づき、学校運営方針が策定され、組織内で共有されているか。	4	4
2-2 人事考課制度、給与制度は整備され、共有されているか。	3	3
2-3 意思決定システムは確立されているか。	3	3
2-4 学生・保護者 ² の意見・要望を反映した運営がなされているか。	3	3
2-5 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	4

学校運営に対する取り組み、問題点など

- ・1月・4月に教職員全体会を実施し、その場で経営責任者から中長期展望および、年度重点方針が伝えられ、それを基に各学科が具体的方針・施策を策定・実行している。
また、3月に部門別発表会を行い、学科・部門毎の年度計画、年度目標に関する発表、振り返りを行っている。
- ・年2回(前期・後期)授業アンケートを全学生対象に実施している。その際に、授業以外の意見・要望も記載できるように自由記載欄を設け学生の声を反映している。
- ・教職員同士はクラウドサービスのドライブを活用して、同一ファイルを共有、共同で編集を行うようにして、業務効率化を図っている。また、このドライブには、学生も全員個人アカウントを持っており、教職員・学生間でもファイルや動画の共有ができ、印刷・配布・回収等の雑務を減らすことができている。また問題解説動画を作成しアップロードしている。そのため就職活動等で授業をオンタイムで受講できなくても、後から視聴・受講したり、理解が不十分だった部分を再視聴したりできるようにしている。
- ・社会人教育の運営に関する「民間教育訓練期間における職業訓練サービスガイドライン」に則り運営を行っている。(研修受講)しかしながら、「ガイドライン適合事業所認定」は現在受けていない。

² 学生・保護者になる言葉「社会人受講生・企業」

(3) 教育活動

評価項目	前回	評価
3-1 教育理念に沿って、各学科 ³ の目標・方針が策定されているか。	4	4
3-2 学科 ⁴ 等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	4	4
3-3 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4	4
3-4 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	4	4
3-5 関係分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか。	4	4
3-6 授業評価の実施・評価体制はあるか。	3	3
3-7 職業教育に対する外部関係者 ⁵ からの評価を取り入れているか。	4	4
3-8 成績評価・単位認定、進級・卒業判定 ⁶ の基準は明確になっているか。	4	4
3-9 関連業界や外部とのネットワーク構築に優れた教員（本務・兼務含む）を確保し、外部との良好な関係を築けているか。	4	4
3-10 新たな知識・技術等を修得するための研修や外部講座に教職員を派遣しているか。	3	3
3-11 職員の能力開発のための研修・勉強会等が行われているか。	3	3

教育活動に対する取り組み、問題点など

- ・エアライン学科では、従来のエアライン系の基礎知識・技術習得、語学（特に英語力）を伸ばすための体制構築（補習等のサポート体制強化）ができています。
- ・キャリア支援センターと外部企業との繋がりが強化された結果、企業と学生のコラボレーション企画等も行われ、良好な関係作りが促進されている。
- ・教育課程編成委員会を年間2回実施し、感想だけでなく、アドバイス・ヒントをいただくことができ、

³ 部署

⁴ 職業訓練及び企業研修

⁵ 外部関係者の定義が不明→受講生アンケートは毎回取って改善に取り入れている

⁶ 成績評価・修了判定

貴重な場となっている。

- ・エアライン学科1年生が参加させて頂く岡山空港でのインターンシップ、2023年度は前年度より期間が伸びて、10月～12月中旬までの約2ヶ月間半行かせて頂くことができた。2023年度岡山空港の利用者数が4年ぶりに100万人を上回っており、インターンシップ期間中も空港内は多くの利用者の方々で活況を呈していた。当初は「積極性が足りない」「元気が無い」と厳しいご指摘も多かったが、現場に立つ緊張感と高揚感で、学生なりに向上心を持って取り組ませて頂いた。
- ・エアライン学科1年生には、「国内旅程管理主任研修」を初めてカリキュラムに導入した。旅行会社に所属する添乗員には必ず取得が義務付けられる旅程管理主任者(ツアーコンダクター)になるための研修で、座学に加えて、倉敷美観地区での実地研修も行い、無事12名全員が資格を取得する権利を得ることができた。地方空港は、地元の旅行会社が運営を請け負っていることが多く、就職活動でも話題にのぼる可能性が高いため、2024年度も1年次のカリキュラムで継続させる。
- ・エアライン学科2年生は、おかやま観光コンベンション協会と岡山城の方にご協力を仰ぎ、岡山外語学院で学ぶ留学生16名に、岡山城と後樂園を優しい日本語で案内するツアーを7月26日に実施した。岡山の歴史や文化を、外国人に、優しい日本語で説明するという難易度の高い内容で、事前の準備はもちろん、現地でのリハーサルも行った上で当日を迎えたが、30℃を優に超える猛暑で、ゲストの集中力や体調にも気を配らねばならず、学生たちはツアー遂行に苦心していた。おおむね好意的な感想が多かったが、もっとフレンドリーな対応が良かったという声も一部あった。猛暑の時期に、屋外での行事は出来る限り避けたい。2024年度は実施形態を変更する予定。
- ・ブライダル・ホテル学科1年生は、本格的にインターンシップに赴く前の5～7月のうち約2ヶ月間、ANAクラウンプラザホテル岡山とTHE STYLEにて、ベッドメイキングや清掃、会場設営、料飲サービスとの現場実習をさせて頂いた。THE STYLEでの受け入れは、2023年度が初めてで、これは株式会社ファインプランニングの協力で実現した。2024年度も、両施設とも継続実施。
- ・ブライダル・ホテル学科の1年生のインターンシップは、2023年度も9月中旬から12月末までの3か月半で実施できた。県内はもとより、25名中16名が県外施設での実習を希望し、その割合は過去最多。兵庫、大阪、広島、鳥取、島根、京都、沖縄など、本校学生としては今回が初めて受け入れて頂いた施設も多かった。開催が定着化してきた2月のインターンシップ発表会には、ほぼすべての施設の方々(21社/オンライン参加含む)が参加して下さり、厳しくも温かいご意見を多くたまわった。
- ・ブライダル・ホテル学科2年生は、卒業制作として、例年、模擬結婚式を実施してきた。しかし、2023年度は、2020年に新型コロナウイルスが理由で式を中止せざるを得なかったご夫婦にご協力を頂き、森の邸宅彩音にて本物の結婚式を運営・実施した。挙式・披露宴共に、学生たちのアイデアをたくさん採用して頂いた。ご親族やご友人の方々にもご臨席を賜り、例年以上の経験と感動を得ることができた。
- ・公務員学科では、有志の学生たちが造山古墳蘇生会のボランティアガイドとして活動をしている。小学生の校外学習のサポートガイドとして、小学生や先生、ベテランのボランティアガイドなど幅広い年代の方々とコミュニケーションを取ったり、予定外な出来事へ対応したりと、ここでしか体験できないことをしっかりと学べている。また10月7日“造山古墳を空の上から見てみよう”というイベントを企画・運営し、18組43名のお客様にご搭乗いただいた。企画に携わった学生にとっては、得難い体験で

あり、多くの学生が学生時代に印象に残ったこととして、この気球搭乗企画を挙げている。

- ・全学生を対象とした授業アンケートを年2回、全科目分実施している。概要は以下の通り
 - 4段階評価（4=良い、3=まずまず良い、2=あまり良くない、良くない）
 - 各授業4項目実施（授業理解・講義方法・内容構成・授業価値）
 - 数値評価以外に講師ごとに良い点・不足の点を記述してもらう。
 - その他、意見、感想欄を設けて記述してもらう
 - 回収後、集計し全教員に公開

標準的な数値に届かない、前回数値から改善が見えない、急激に数値を落としている場合などは、各学科長の指導のもと、改善計画を練り、実行している。

・常に新しい考え方や知識・技術を習得していくためにも、教職員の外部研修派遣・招致は積極的に行う必要があると感じる。令和5年度は、12月27日に株式会社UTG 高尾様を講師にお招きして、入学生募集、在校生への声かけ方法をテーマに教職員研修を行った。

- ・生涯学習センターでは例年、短期における職業訓練（2ヶ月・3ヶ月・5ヶ月・6ヶ月）を実施しており「知識習得」が中心となっている。独立行政法人高齢・障害・求職者支援機構（ポリテクセンター岡山）の生産性向上支援訓練における、「IT人材開発」の分野においても一定の評価を受け信頼をいただいている。今後のデジタル人材の育成に関しては「活用できる人材育成」が急務であることから、引き続き企業に研修及び情報提供をしていくことにより、当センターの社会的価値を向上できるものと考えている。昨今、リカレント教育及びリスキリング叫ばれている時代背景において「時代に適応する人材育成」をさらに強化したいと考えている。

特に、AIの技術革新は目覚ましく「作る」より「使い、活用する」人材が求められているため、引き続き研修カリキュラムを研究し社会に提供していきたいと考えている。

(4) 学修成果

評 価 項 目	前回	評価
4-1 就職率（公務員試験合格率含む）の向上が図られているか。	4	4
4-2 資格取得率の向上が図られているか。	3	3
4-3 退学率 ⁷ の低減が図られているか。	4	4
4-4 卒業生・在校生 ⁸ の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	4	3
4-5 卒業後 ⁹ のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	3	3

⁷ 退所率となるが、社会人の場合コントロールが困難（事例：介護・病気・早期就職）

⁸ 受講生（すべての受講生に関して把握できていない。）

⁹ 訓練修了後（大きな改善には至っていない）

学修成果に対する取り組み、問題点など

・就職サポート重点的項目

- 企業研究のサポート
- 履歴書、エントリーシート作成のサポート（ヒアリング・添削）
- 過去の試験情報の提供（先輩の受験報告書閲覧）
- 面接指導（模擬面接の実施）
- 個別面談（悩みの相談など）

これらを、各学科担任や担当講師、キャリア支援センター職員が協同して行っている。

- ・航空需要の回復とともに、航空業界は引き続き深刻な人員不足に陥っており、エアライン学科 8 名の学生全員が航空業界（地上職員）から内定を頂いた。しかし 1 社目ですんなりと内定を頂けないこともあるため緊張感はある。また、留学経験もあり、歴代の学生の中でも TOEIC ハイスコアの学生が、フラッグキャリアのキャビンアテンダントの採用試験に挑戦したものの、最終選考まで進むことはできなかった。フラッグキャリアのキャビンアテンダントはまだまだ狭き門であり、それを突破するためには、綿密な準備と積み重ねが必要と思われる。
- ・ブライダル業界・ホテル業界共に人員は不足しており、内定は頂きやすい環境にある。ブライダル・ホテル学科では業界外を志望した 1 名を除く 10 名が業界から内定を頂いた。本校はブライダル業界志望の学生が多かったが、2023 年度は 4 名の学生がホテルへ就職した。本校でもホテル志望者は増加傾向にある。また、カメラマン志望の学生は、フリーランスで撮影や映像の仕事を請け負っていくとのこと。働き方の多様化が進む中で、新卒の学生にとってもフリーランスが選択肢のひとつになっている。
- ・資格取得をサポートするために、授業のみならず、授業外（放課後等）補習、個別対応の時間を適宜取っている。社会に出て活躍するために、最低限必要な知識・スキルについては卒業必須資格として設定しており、たとえ卒業可能単位数を取得していても、必須資格が未取得の場合は留年の措置を取っている。
- ・近年の卒業生が頻繁に訪ねてきてくれたり、卒業生を招いての講演、講義を行ったりするため、新入社員や若手社員側から見える不足点の聞き取り量は豊富である。また、卒業生に対して、キャリア支援センター職員が定期訪問し、勤務状況の聞き取りや直接面談も行っている。そこで得られた卒業生情報は教職員の WEB 掲示板等で情報共有されている。
- ・生涯学習センターが実施している職業訓練に関しては、ほぼ 100%の修了率ではあるが一部退所を余儀なくされる場合もある。その背景は、家庭環境の問題（介護・育児・家族の病気）によるものが殆どである。更に増加傾向にあるのが精神疾患を抱えた受講生であり、受講の継続面及び公的機関にも働きかけ連携した対応が必要であると考えている、また、そのほかの健康問題を抱えた受講生も増えており職業訓練全体の問題でもありと考えている。

(5) 学生支援

評 価 項 目	前回	評価
5-1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	4

5-2 学生相談に関する体制は整備されているか。	4	4
5-3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4	4
5-4 学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか。	3	3
5-5 課外活動に対する支援体制は整備されているか。	3	3
5-6 学生の生活環境への支援は行われているか。	3	3
5-7 保護者と適切に連携しているか。	4	4
5-8 卒業生をフォローアップする体制が整備され、機能しているか。	4	3
5-9 同窓会が組織化され、活発に活動をしているか。	3	3
5-10 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	3	3

学生支援に対する取り組み、問題点など

- ・学生への支援を学校全体で行っている。特に、対面式個人面談を数多く実施してサポートしている。
- ・学生の健康管理については、学生本人の自己管理（食事摂取・十分な睡眠、休養を取る等）が最も重要な要素である。生活リズムが乱れている学生や、過剰なアルバイト等で規則正しい生活が送れていない学生には、担任が指導・説諭を行っている。
- ・学生への経済的支援策で、「入学時特待生制度」「進級時特待生制度」「卒業時報奨金制度」を設けている。また、株式会社ウェーブハウス様にご支援を頂き、「ウェーブハウス奨学金制度」も設けている。令和3年度より、「修学支援新制度」の対象校の認定を頂くことが出来、複数の学生が活用させていただいている。また、それに該当しなかった学生への措置として、独自の「入学前予約型支給奨学金制度」も設けている。
- ・学生数の数倍の貸与用マスクや殺菌消毒用アルコール液を準備、備蓄できている。各号館に簡易的な保健室や救急箱・AEDも配備している。また、教職員・学生の一部は救急法安全講習を受講修了している。
- ・学校公認のクラブが8部存在し、のべ160名以上が所属していた。（兼部可能）各部に担当顧問教員がつき、対応している。部活動予算もあり、消耗品の購入等に充てている。
令和5年度は卓球部員が全国専門学校卓球選手権大会シングルの部で第3位、野球部が令和5年度全国専門学校軟式野球選手権大会 中国大会で優勝し、全国大会にも出場した。
- ・全ての学科で、卒業生を授業時間に招いて、現場の声を直接学生に伝える機会を設けている。

- ・保護者との連携に力を注いでいる。子息の成長を感じていただくこと、学生からの感謝の言葉を伝えること等に重点を置いている。定期的を送付する履修状況報告書、卒業発表会、卒業式典内で実施している感謝の言葉（感謝の手紙を本人が読み上げる）等で学生本人の想いを保護者に届けている。保護者の感動する姿や喜ぶ姿が学生の成長に繋がっている。
- ・同窓会が組織されており、2008年には創立30周年記念式典、祝賀会を岡山プラザホテルにて実施した。また、2018年には創立40周年を記念し、保護者招宴会をANAクラウンプラザホテルにて挙行している

(6) 教育環境

評 価 項 目	前回	評価
6-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4	4
6-2 学内外の実習施設、インターンシップ、外部研修等について十分な教育体制を整備できているか。	3	3
6-3 ¹⁰ 防災に対する体制は整備されているか。	3	3

教育環境に対する取り組み、問題点など

- ・各種検定試験会場として施設の利用を行っている。また、外部企業のセミナーの実施に利用していただけるように案内もしている。
- ・岡山市消防局の指導のもと、適切な防災設備（防火シャッターの自動化等）の刷新、設置を行っている。各建物に防火責任者（講習受講済み）を配置している。自主的な避難訓練も実施している。

(7) 学生の受入れ募集

評 価 項 目	前回	評価
7-1 学生募集活動は、適正に行われているか。	4	4
7-2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4	4
7-3 学納金は妥当なものとなっているか。	4	4

学生の受入れ募集に対する取り組み、問題点など

- ・学生募集活動はオープンキャンパス開催、学科イベント举行、高校訪問・高校内ガイダンス授業への参加等を中心に行っている。その際に、学園として都合の良い情報や成果だけでなく、不利になるような

¹⁰ 防災訓練等を行っていない。

情報、結果も隠さずに伝えることで、信頼関係の構築を真摯に図っている。(学生の退学事例、就職活動結果等)

- ・全学生が行う取り組みで履修状況報告書の作成、送付がある。これはお世話になった恩師や両親に、学校での学びや現在の所感を報告書形式でまとめ、郵送する取り組みである。定期的に送付するため、学生の内面の変化・成長を文面から感じていただき、好評である。

(8) 財務

評価項目	前回	評価
8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4	4
8-2 財務について会計監査が適正に行われているか。	4	4
8-3 財務情報公開の体制整備はできているか。	4	4

財務に対する取り組み、問題点など

- ・財務情報の公開を行っている。

(9) 法令等の遵守

評価項目	前回	評価
9-1 法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか。	4	4
9-2 個人情報に関し、その保護のための政策がとれているか。	3	3
9-3 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	4	4
9-4 自己評価結果を公開しているか。	4	4

法令等の遵守に対する取り組み、問題点など

- ・個人情報を保護するために最低限のルールは守られている。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	前回	評価
10-1 ¹¹ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	3	3

¹¹ 検定会場等の貸し出しを含めているが、この項目に該当するかは不明

10-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4	4
10-3 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか。	4	4

社会貢献・地域貢献に対する取り組み、問題点など

- ・全学科共通科目ヒューマンスキルプログラムとして社会貢献活動を組み込んで行っている（1年生前期）。また、授業外でも関係施設からの委託や岡山駅西口交番と連携した企画等を学生に提示し、地域ボランティア活動を奨励している。
- ・コロナ禍において、子育て・介護中の女性を中心とした「在宅ワーク講座」の開催が難しく。コロナの問題が収まってからの継続的な取り組みを考えている。半面、企業研修（デジタルスキル関連）が増加傾向にあり、引き続き対応をしていくこととしている。

以上